

令和 2 年 4 月

関係者各位

学校法人アイピーシー学園
愛知ペット専門学校
理事長学校長 牧 良

学校関係者評価報告書の公表について

このことにつきまして、令和 2 年 3 月 26 日付けの「学校関係者評価委員会」の報告書を別添の通りまとめました。ここに、「平成 31 年（令和元年）度自己評価及び学校関係者評価報告書」を公表いたします。なお、今回は新型コロナウイルス拡大防止のため、書類提出のみとなりました。今後は、学校関係者評価委員各位のご意見やご指導を真摯に受け止め、より良い教育活動、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力してまいります。

今後とも、より一層のご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 31 年（令和元年）度
「自己評価及び学校関係者評価報告書」

《作成日：令和 2 年 3 月 26 日》

学校法人 IPC学園

愛知ペット専門学校

1. 学校関係者評価委員会名簿

| 氏名 | 所属 |
|-------|------------------------------|
| 岩本 英司 | 株式会社アイピーシー 営業部部長 |
| 宇野 哲安 | 有限会社宇野獣医科 院長 |
| 大槻 祐介 | 株式会社アイピーシー 事業管理部次長 |
| 山本 順子 | 株式会社アイピーシー ペットサロン doggies 店長 |
| 竹下 亜紀 | 株式会社アイピーシー わんわん動物園主任 |

2. 学校関係者評価委員会開催記録（概要）

令和2年3月26日（木）15：00～16：00に開催を予定いたしましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた政府の基本方針などに鑑み、開催を中止しました。

【議題（決定事項）】

1) 平成31年（令和元年）度愛知ペット専門学校自己評価報告案について

【会議資料】資料1 平成31年（令和元年）度 愛知ペット専門学校 自己評価報告

3. 【評価項目の自己評価結果、課題及び改善方策】（評価：適切4、ほぼ適切3、やや不適切2、不適切1）

| (1) 教育理念・目標 | | 評価 |
|-------------|--|----|
| 1 | 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| 2 | 学校における職業教育の特色は何か | 4 |
| 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 4 | 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が生徒・保護者等に周知されているか | 4 |
| 5 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

「社会に貢献しうる有能な人材としてペットの専門家を育成することを目的とする。」という本校の教育目標に対し、各科の専門特性を基盤とした学科目標を明確にし、学生への周知、保護者に向けた情報発信に努めている。特に、各科学生に対し取得を目標とするライセンス・資格・検定等は、職業教育の中核と成すことは教職員の理解が進み、また学生あるいは保護者様へと十分に説明が成された。ペット業界の変化に伴うニーズに対し、遅れやずれが生じないよう、情報収集及び情報発信等を継続的に行うとともに、またその内容が迅速に教育に反映できるようにさらなる対応を継続する。

| (2) 学校運営 | | 評価 |
|----------|--|----|
| 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 2 | 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 4 | 人事・給与に関する制度は整備されているか | 4 |

| | | |
|---|--------------------------------|---|
| 5 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 6 | 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 7 | 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 8 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

学校の教育理念、授業内容、学生指導などについては、理事長直轄の定例会を毎週火曜日に開催しており、各学科長、各学年主任、広報部主事をメンバーに教育目的、授業内容、学生指導などの運営を進めている。教務・財務等の組織整備などは教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告連絡相談および稟議等により適切な意思決定がなされている。今後も、定例会の内容の充実化を図っていく。

| (3) 教育活動 | | 評価 |
|----------|--|----|
| 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか | 4 |
| 5 | 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 6 | 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 8 | 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 9 | 成績評価・単位認定に基準は明確になっているか | 4 |
| 10 | 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 11 | 人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか | 3 |
| 12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| 14 | 教員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

教育理念、業界のニーズを踏まえた育成人材像として“社会人マナーを備え、即戦力で活躍できる人材の育成”を掲げている。当校の教育課程編成委員会等を活用して関係企業様から“育成人材像”をヒアリングし、教育理念と照らし合わせながら、よりの確にカリキュラム等へ反映できるよう努めている。業界ニーズを常に意識し、カリキュラムや教育方法の工夫は毎年行われている。令和2年度は、より実

実践的かつ人材育成に反映した授業・実習プログラムにすべく、各専門分野の技術知識のみでなく、新規の取り組みを検討・試行していく。

| (4) 学修成果 | | 評価 |
|----------|---------------------------------------|----|
| 1 | 就職率の向上は図られているか | 4 |
| 2 | 資格取得率の向上は図られているか | 4 |
| 3 | 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 |
| 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

令和元年度は、就職希望者に対し100%の内定率となった。早期に就職活動を指導できるよう取り組んできた結果といえる。引き続き、年間計画の定期的な見直しや学生個々へのフォロー体制を図っていく。また、各学生が自分のできていることとその先にクリアすべき課題が具体的に把握できるような指導方法に努め、教員の指導力の向上・強化のため各科のコミュニケーションを深める。

| (5) 学生支援 | | 評価 |
|----------|---------------------------------|----|
| 1 | 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 2 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 3 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 4 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 5 | 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 6 | 卒業生への支援体制はあるか | 4 |
| 7 | 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 8 | 企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組は職業実践専門課程の企業等との連携等により概ね成されていると評価できる。また、教育訓練給付金制度の周知や学修支援新体制の認可を受けるなど、経済的に支援できるような体制を整えてきている。学生相談については、担任制と定期的な個人面談を実施し、個別に状況を把握できるよう指導記録簿の記載とともに、定例会での報告相談を密にし、早期対応を継続していく。

| (6) 教育環境 | | 評価 |
|----------|--|----|
| 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 2 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |

| | | |
|---|-------------------|---|
| 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 3 |
|---|-------------------|---|

【自己評価結果・課題及び改善方策】

防災に対する体制整備として、学校所在地における防災マップの掲示、災害発生時の初期対応、2次対応について教職員・在校生を含めて情報共有を図っている。本年度も9月2日に通常の避難訓練に加え、施設で飼養・保管している全生体の安否確認及び一時避難を想定した訓練を実施した。今後も引き続き、文科省、環境省あるいは岡崎市のガイドラインやマニュアルを参考にして学校防災の意識向上に努める。より多く、広い視野・見聞で学習ができるよう設備・施設の充実を随時行っていく。

| (7) 学生の受け入れ募集 | | 評価 |
|---------------|-----------------------------|----|
| 1 | 学生募集活動は適正に行われているか | 4 |
| 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 3 | 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

本校の魅力・教育目標等をさらに広く伝え、理解を得るために、パンフレットや募集要項、WEB媒体等の刷新を試みている。学生募集に携わる職員はもちろん、教職員が一丸となって提供する情報を共有し、特に体験入学会では、募集活動におけるスキルアップのための研修を行い、万全な準備を整備して募集活動を実施している。特に、各科の教育成果や教育目標等については、全教職員が入学を検討している学生や保護者様に具体的に伝えられるような努力を継続する。

| (8) 財務 | | 評価 |
|--------|--------------------------|----|
| 1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

学校の予算・収支計画は有効かつ妥当であり財務基盤も安定して問題がない。今後も継続して適正に実施していくが、施設・設備の充実のために財政基盤をより盤石にしていけるよう努力する。

| (9) 法令等の遵守 | | 評価 |
|------------|-------------------------------|----|
| 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 3 | 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 4 | 自己評価結果を公開しているか | 4 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

法令、専修学校設置基準等については常に最新の注意を払って適正に運営している。職業実践専門課程の運営において、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインの項目とその対応（財産

目録・貸借対照表・収支計算書・事業報告書・監査報告書)、学校関係者評価報告書や各学科の職業実践専門課程の基本情報について学校ホームページ上で公開および閲覧できるようにしている。個人情報に関しては、情報が書かれたメモ等は受け渡しノートに添付する、FAX 送信時は転写されないよう目隠しをする、パソコン等で個人情報を扱う場合は所定の機材を使用することや記憶媒体への接続を制限する等、引き続き第三者の閲覧を予防するために工夫・徹底に努めていく。

| (10) 社会貢献・地域貢献 | | 評価 |
|----------------|---|----|
| 1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| 2 | 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練（職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

【自己評価結果・課題及び改善方策】

本年度は“地域清掃”と称する活動を強化して社会貢献・地域貢献を行っている。学校施設周囲の道路・歩道のゴミ収集・路面清掃、関係施設周辺では岡崎市と連携した“イエローカード作戦”を通じた路上排泄犬糞の放置を防止するための活動を実施している。また、ドッグトレーナー科では継続して岡崎盲学校へのボランティア活動を実施した。今後も、学生自ら提案したボランティア活動等の支援体制の整備や公開講座の開催・受託等を積極的に進めていく。

以上